

# こころる便り

第260号

令和3年11月

〒679-1434  
兵庫県たつの市新宮町大屋六六ハ一十二  
株式会社 新宮運送グループ  
代表/木南 一志  
kiminami@siningu.co.jp  
電話 079-1-755-1212



新宮運送ホームページ

## 現場がすべて

一気に寒くなり始めて冬の訪れが早いと思わせる北風となっています。皆さんのお手元に今号が届くころには総選挙の結果も出て、組閣も本格化し始めていることでしょう。

静岡県熱海市で起きた大規模な土石流について、「産経抄」と共に何が大切であるのかを考えてみたいと思います。この人災と呼ばれる災害の中に、行政の規制のあり方や現場の仕事の進め方についてのヒントがたくさん隠されています。

記事の中にあるように、県と市は危険性を共有して、危険であるから安全対策せよとの決定まで下していたのに、見送ってしまう。

行政は、規制をするだけでなく、それを法的に執行する権限を持っているはずですが、行政の強制執行というのにはよほどでないといけません。道路拡幅や立ち退きなどではないぶん時間がかかっていることは皆さん承知しておられることですが、我が国では諸外国に比べて、権利を主張する個人が大切にされて、公共のことは後回しとなる事例が多いと思います。それだけ個人の権利を大切に守るといふ考え方が根底にあり、中国のように人権無視というような強制力がほとんどありません。そのうえ、手続き主義で書面や申し出がないことには物事が進められない仕組みでもあるのです。悪い捉え方をすれば、言い訳にできる部分はたくさんあるので法律を盾にとれば、やらなくていい事由を見つけて出すことができます。

さて、ここで現場の判断力、実行力があつたと仮定したならどうでしょう。危険であるから安全対策せよとの決定をしているわけですから、粛々とその決定を執行すればいいだけのことで、そうすれば、土石流は起きていなかったという結果を導くことはできます。

これは結果論で、あの時やつておけば・・・という評論家の理論ですから、何の参考にもなりません。しかし、物事を私たちの現場に置き換えてみて、同じようなことが職場の中にもないかと考えてみてください。

誰もが同じように、いつかそうなるだろう・・・ということが見えているのに実行することなく、あるいは上司が、または同僚が言ったから・・・と放っておいたことが引き金になったなど、そんなに珍しくもないことではないでしょう。

現場がすべてというのには、問題が起きるのはいつも現場で、その場で解決しておけば簡単に答えが出たものを、上司の許可だの手続き書面だのと言いつつ、取り返しのつかないことにつながっていくということなのです。

## 産経抄

地方公務員は大変だ。しばしば判断に迷う場面に遭遇する。たとえば親しくしている営業担当者から義理チョコを渡された。受け取

つていいものか。倫理規定上、利害関係者からの贈与は禁止行為だが、例外もある。▼一般に広く配布されている記念品・宣伝用物品、つまり〇〇記念のボールペンや社名入りのカレンダーなら認められる。残念ながら市販のチョコレートはアウトだった。「義理チョコ」はセーフです。よね？ なんとどこぞの地方公務員のコンプライアンス』（鶴養幸雄

記念ボールペンならセーフで、市販のチョコレートならアウトというような判断基準を定めようとするから、ラーメンはいいのか、お酒はどうかなど次々に事例が必要になります。「何のために」ということを常に考えながら現場のレベルを上げていかねばなりません。

我が国では常識というレベルが高く設定されていて、自分が足りないことを恥ずかしいと感じることで反省をしながら、その高いレベルを維持してきたのです。恥ずかしくない現場力を発揮できる組織を作っていかなければなりません。

そのためには、感度を上げていくことが大切です。泣いたり笑ったりの中ではなく、まわって行くのです。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拜

著）▼とはいえず静岡県熱海市の盛り土について、県と市の職員に迷う余地はなかったはずだ。市内を流れる逢初川の最上流部の土地を所有する不動産管理会社は10年前、盛り土に木くずを埋めるなどの問題行為を繰り返していた。その高さは届け出書の記載を大幅に上回っていった。▼県と市は土砂崩落の危険性を共有していた。市は県と協議して所有者に安全対策を求める命令を決定していた。ところが最終的に見送ってしまった。果たして今年7月、この土地を起点とした大規模土石流が発生、26人が死亡、1人が行方不明となった。惨事を引き起こす直前、盛り土の高さは50センチにもなっていた。遺族が「行政の不作为という生易しいものではない」と憤るのも当然だ。▼「杓子定規」という言葉は、役所を批判する際によく使われる。形式にとらわれて融通がきかない対応を指す。ただこの四字熟語には、別の意味もある。杓子の曲がった柄を定規に利用することから、間違った基準でものを測ることをいう。▼この10年間に起こっていた数度にわたる崩落についても、県は把握していた。やはり行政側の定規がねじ曲がっていたとしか、考えられない。

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていただいております。